△日程第4
△議案第1号 令和5年度千歳市一般会計補正予算について（第2回）
△議案第2号 令和5年度千歳市水道事業会計補正予算について（第1回）
△議案第3号 令和5年度千歳市下水道事業会計補正予算について（第1回）
○山崎議長 日程第4 議案第1号から第3号までを議題といたします。
提出者の説明を求めます。

◎佐藤総務部長 私からは、議案第1号について御説明を申し上げます。
議案第1号は、令和5年度千歳市一般会計補正予算（第2回）であります。
別冊の令和5年度千歳市各会計補正予算書の1ページをお開き願います。
歳入歳出予算の総額に、それぞれ2億3,318万3,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を、それぞれ473億1,595万円にしようとするものであります。
各事業の補正の内容でありますが、歳入歳出補正予算書事項別明細書の歳出8、9ページをお開き願います。
初めに、2款総務費、1項総務管理費、8目企画費に608万円の追加は、次世代半導体拠点推進事業費であり、ラピダス株式会社の立地に当たり、関係機関との協議など、事業を推進するために必要な事務費を追加しようとするものであります。
次に、3款民生費、2項児童福祉費、1目児童福祉総務費に1億5,286万3,000円の追加は、低所得の子育て世帯生活支援特別給付金支給事業費であり、国は、食費等の物価高騰の影響を特に受けた低所得の子育て世帯に対し、その実情を踏まえた生活支援を行うことを目的として、児童扶養手当受給者等の低所得の独り親世帯及び住民税非課税の子育て世帯などを対象に、児童1人当たり5万円の特別給付金の支給を決定したことから、速やかに給付を行うため、追加しようとするものであります。
次に、10、11ページをお開きいただきまして、12款諸支出金、1項公営企業繰出金、2目水道事業繰出金に4,094万8,000円の追加は、水道事業繰出金であり、ラピダス株式会社の立地に当たり、水道管の新設が必要となったことから、水道事業会計で行う整備に係る費用を負担するため、追加しようとするものであります。
次に、3目下水道事業繰出金に3,329万2,000円の追加は、下水道事業繰出金であり、同じく、ラピダス株式会社の立地に当たり、汚水管及び雨水管の新設等が必要となったことから、下水道事業会計で行う整備に係る費用を負担するため、追加しようとするものであります。
以上、歳出に2億3,318万3,000円を追加し、歳出合計を473億1,595万円としようとするものであります。
補正額の財源内訳のうち、一般財源8,032万円につきましては、歳入の事項別明細書6、7ページをお開きいただきまして、18款財産収入、1項財産運用収入、1目財産貸付収入、2節土地

貸付料2億259万6,000円の追加、20款繰入金、1項基金繰入金、1目1節財政調整基金繰入金から1億2,227万6,000円の減額によるものであります。

また、今回の補正予算後の財政調整基金の年末残高は、20億円程度となる見込みであります。

以上、議案第1号につきまして御説明を申し上げましたが、よろしく御審議、御決定いただきますようお願い申し上げます。

◎渡邉水道局長　私からは、議案第2号令和5年度千歳市水道事業会計補正予算（第1回）及び議案第3号令和5年度千歳市下水道事業会計補正予算（第1回）について御説明申し上げます。

まず、初めに、令和5年度千歳市水道事業会計補正予算（第1回）から御説明申し上げます。

別冊の令和5年度千歳市各会計補正予算書の13ページをお開き願います。

今回の補正予算の内容につきましては、本市美々地区へのラピダス株式会社の立地に伴い、当該地区の整備が生じたため、補正するものであります。

第1条では、本補正予算（第1回）について定め、第2条は、予算第2条に定めておりました業務の予定量のうち、建設改良事業の増補改良費に5億5,569万8,000円を追加し、12億6,342万3,000円にしようとするものであります。

第3条は、予算第4条本文括弧書中、不足する額6億8,988万4,000円を6億8,783万4,000円に、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額5,781万7,000円を1億382万9,000円に、過年度分損益勘定留保資金5億5,626万7,000円を5億820万5,000円に改め、資本的収入及び支出の予定額を補正するもので、収入につきましては、第1款資本的収入、第1項企業債に5億1,680万円を追加して10億7,490万円に、7項他会計負担金の項目を新たに設けて4,094万8,000円を追加し、資本的収入総額を12億871万1,000円にしようとするもので、支出につきましては、第1款資本的支出、第1項建設改良費に5億5,569万8,000円を追加して13億5,524万1,000円とし、資本的支出総額を18億9,654万5,000円にしようとするものであります。

第4条は、予算第5条に定めておりました債務負担行為を補正するもので、事項は、美々地区外水道整備事業、期間は、令和6年度から令和7年度まで、限度額は8億3,642万9,000円として追加するものであります。

第5条は、企業債を補正するもので、予算第6条に定めておりました限度額5億5,810万円を10億7,490万円に改めようとするものであります。

第6条は、予算第10条に定めておりました他会計からの繰入金を補正するもので、美々地区外水道整備事業として4,094万8,000円を追加しようとするものであります。

なお、これらの補正予算に関連いたします補正予算実施計画、補正予算実施計画説明書、予定キャッシュ・フロー計算書、予定貸借対照表及び注記事項につきましては、15ページから24ページまでに記載のとおりでありますので、説明につきましては省略させていただきます。

次に、令和5年度千歳市下水道事業会計補正予算（第1回）について御説明申し上げます。

令和5年度千歳市各会計補正予算書の25ページをお開き願います。

今回の補正予算の内容につきましては、本市美々地区のラピダス株式会社の立地に伴い、建設

予定地を一体的に活用するため、美々中通を廃止する予定であることから、既存の下水道管の布設替えが生じたことにより補正するものであります。

第１条では、本補正予算（第１回）について定め、第2条は、予算第2条に定めておりました業務の予定量のうち、建設改良事業の公共下水道整備費に10億4,170万円を追加し、35億1,090万3,000円にしようとするものであります。

第3条は、予算第3条に定めておりました収益的収入及び支出の予定額を補正するもので、収入につきましては、第１款下水道事業収益、第2項営業外収益に1,466万3,000円を追加して11億8,434万3,000円とし、下水道収益総額を36億324万1,000円にしようとするもので、支出につきましては、第１款下水道事業費、第１項営業費用に1,479万6,000円を追加して33億8,017万1,000円とし、下水道事業費総額を35億3,737万3,000円にしようとするものであります。

第4条は、予算第4条本文括弧書中、不足する額14億1,961万6,000円を14億1,792万4,000円に、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額１億7,812万2,000円を2億6,989万8,000円に、当年度分損益勘定留保資金4億8,017万7,000円を3億8,670万9,000円に改め、資本的収入及び支出の予定額を補正するもので、収入につきましては、第１款資本的収入、第１項企業債に10億1,010万円を追加して22億6,060万円に、第6項他会計負担金に3,329万2,000円を追加して3,751万6,000円とし、資本的収入総額を27億3,425万4,000円にしようとするもので、支出につきましては、第１款資本的支出、第１項建設改良費に10億4,170万円を追加して35億4,392万4,000円とし、資本的支出総額を41億5,217万8,000円にしようとするものであります。

第5条は、企業債を補正するもので、予算第6条に定めておりました限度額12億5,050万円を22億6,060万円に改めようとするものであります。

第6条は、予算第10条に定めておりました他会計からの繰入金を補正するもので、美々地区下水道整備事業として3,329万2,000円を追加しようとするものであります。

なお、これら補正予算に関連いたします補正予算実施計画、補正予算実施計画説明書、予定キャッシュ・フロー計算書、予定損益計算書、予定貸借対照表及び注記事項につきましては、27ページから39ページまでに記載のとおりでありますので、説明につきましては省略させていただきます。

以上、議案第2号及び議案第3号について御説明申し上げましたが、よろしく御審議、御決定いただきますようお願い申し上げます。

○山崎議長　ただいまから、質疑を行います。

（中略）

次に移ります。

◆12番北山議員　無所属の北山でございます。

今般の補正予算に計上されております議案第1号から第3号、私も、ラピダス社関連の美々ワールド第2期整備に関連する水道事業会計及び下水道事業会計の補正予算案全般についてお伺いをしたいというふうに思います。

その前に、初めに申し上げておきたいのですが、今回の補正予算案に計上されましたこれらの工事に係る費用、合わせて16億7,163万8,000円という多額の投資額、この妥当性について、委員会付託を省略して、本日、即日即決しようというのは、いかに市側にスピードを要する事情があろうとも、議会としては、十分な審査を尽くすだけのいとまがございません。

執行部は、議会の承認を受けたと言えば市民説明は済むかもしれませんけれども、我々議員は、議案への賛否の理由を問われれば、きちんと市民に説明する義務がございますので、しっかりと内容を精査する時間をいただきたい、そのことを最初に苦言として呈させていただきます。

今回のラピダス社の本市進出は、千歳市が工業団地を昭和39年に造成して以来、最大と言ってもよい規模の企業立地であり、その可能性については、私も大いに期待をするところであります。

しかし、それは現在の操業計画が滞りなく順調に進んだ場合のことでありまして、今回の補正予算案の賛否を決するに当たり、レクチャーを受けてもなお払拭できない数々の疑問もございます。

そのうち、これから最低限のことをお尋ねしますが、まず、疑問点の一つは、今般の上水道、下水道の布設工事費を千歳市が負担することの妥当性についてです。

昨日開かれた産業建設常任委員会の質疑の中で、この美々ワールド地区は、他の工業団地と異なり未造成のため、工業用地として使うためには、市が開発主体としてこれらのインフラ整備を行う必要がある旨の御答弁がありました。

ラピダス社からは、パイロットラインに必要な上水道の供給量として、1日当たり4,000立米、以下、分かりやすく、単位はトンで申し上げますが、4,000トンの供給を求められており、これに対応するため、柏台地区から延長4.7キロメートルの水道管を新たに布設する必要がある。また、これに付随して、第2期地区に新たな汚水管、雨水管の布設及び布設済みの既存管の撤去工事も必要になるとのことであります。

この4,000トンという水量は、一般的な25メートルプールに換算すると、約7.5杯分という膨大な量です。

昨日の産業建設常任委員会において、私は、現在、千歳市内に進出している事業所の工場用途での有収水量についてお尋ねをいたしましたが、全体169件の1日当たりの利用水量が合計で4,601トン、最大の利用者は飲料製造メーカーで、1日当たり1,600トン、1件当たりの利用水量は、平均すると27トンとのことでありました。

ラピダス社の使用量は、この飲料メーカーの使用量の2.5倍、その他の事業所168件の合計は3,000トンですから、いかに莫大な量であるかが分かりますし、この美々ワールドを計画したときにも、まさかこれほどの水を使う企業が立地するとは想定していなかったはずです。

もしこれが常識的な使用量で足りるという事業所であった場合、恐らく、現在、セイコーエプソン社が位置する第1期Dブロックから先につながる水道管の布設で済むわけで、今回の工事区間で言いますと、第1工区及び第2工区を合わせたおよそ1キロメートル程度が、市が開発主体として上水道を布設するべき延長ということになり、残り第3工区から第7工区までの約3.7キロメートル及び下水道工事全般については、いかにオーダーメイドとはいえ、立地企業の都合によって行わなければならない、市にとっては、本来、義務のないオーバースペックな工事だというふうに私は捉えております。

3月27日の第1回定例会において、1億3,900万円の補正予算が計上されましたけれども、未造成地である第2期地区の測量や地質調査等に係る調査費という名目でありまして、これはラピダス社以外のいかなる企業が来ようとも必要となる経費でありますし、金額的にも妥当であると判断ができましたので、私も賛成をいたしました。

しかし、今回計上された補正予算に関して言えば、今、指摘したような常識的な範疇を超えた部分については、当然ながら、受益者である事業者に負担を求めるのが筋ではないかと考えます。

そこで、お尋ねをいたしますが、今回の4,000トンの給水を打診された際に、ラピダス社に対して、市から応分の工事費用負担を求める働きかけを行ったのか否か、あるいは、国家プロジェクトとして次世代半導体の開発及び生産をラピダス社に委託した国、あるいは、道内への誘致に積極的に関わった北海道に対して、応分の交付金なり助成金を要望するアクションを市から起こしたのかどうか、結果として、どのような経緯を経て、今回の工事費を市が丸抱えすることになったのか、また、今後、同様に、市が費用負担をしなければならない事業等が想定し得るのかについて、分かりやすく御教示ください。

◎森次世代半導体拠点推進室長　お答えします。

まず、国や道、それとラピダス社に応分の負担の働きかけをしたかという御質疑でございますが、一般の工業団地につきましては、開発事業者が全てのインフラ整備を行った上で企業へ引渡しを行っているところでありますが、美々ワールド第2期地区につきましては、現在、開発途中の未造成の土地であります。企業の立地に伴って、市が、当該地の開発事業者として、必要な道路や上下水道の整備を行う必要がある土地でございます。

このことから、このたび、ラピダス社からは、未造成となっている第2期区域への立地と一体的な土地利用に関しての希望があったところでありますので、この立地に伴う必要なインフラ整備として、開発事業者たる市が負担することとなります。

以上です。

◆12番北山議員　特に働きかけはされなかったということだと思いますが、例えば、私たちが建て売り住宅や新車を買う場合、どこのメーカーでも大抵は標準仕様というのが決まっていまして、そこからユーザーの用途に合わせて、オプションを追加して仕様変更するというようなことを行います。当然、それらのオプション料金というのは、標準価格に上乗せされて、ユーザーが支払うというのが一般常識だと思っております。

ところが、今回、常識的な使用量を超える上水道の供給に対して、デベロッパーである千歳市

が、今、オーバースペックと私は申し上げましたけれども、その部分まで全て負担するというのは、これはあまり筋が通らないのではないかと、言ってみれば大盤振る舞い過ぎるというふうに思います。こういうことを民間企業がやれば、当然、潰れてしまうということを私は感じます。

今後、一般会計で債務負担をする16億7,000万円余り、これをもし市が負担しなくても済めば、そのお金を、我々議員が今まで求めてきました財源を理由にできないと言われてきた福祉施策や子育て施策の助成に充てることだってできると思います。

幾ら千載一遇の将来性の高い企業を呼ぶためとはいっても、求めて当然の費用まで市がかぶらざるを得ないというのは、交渉力として、あまりになさ過ぎるのではないかというふうに感じます。

次に、次世代半導体の開発生産という国家プロジェクト事業の継続性への懸念についてお尋ねをしたいと思います。

報道されているところでは、かつて日本が世界の50%を占めていた半導体シェアを奪還するために、政府の肝煎りで、回路線幅2ナノという超先端半導体を世界に先駆けて開発し、量産する使命を受けて設立されたのがラピダス社であって、投資規模5兆円というビッグプロジェクトでありますので、全国的な話題となって注目を集めているという状況でございます。

ラピダス社は、2ナノ以下の次世代半導体のライセンスを持つアメリカのIBMと提携して開発を進めるとのことでありますが、同時期に、アメリカも5.5兆円、中国では10兆円規模の投資を行って、次世代半導体の開発に着手するという報道もございまして、開発競争は熾烈を極めるものと予測されます。

また、別の記事によりますと、現在、2ナノ半導体の量産化に向けて最も先行しているのは、熊本県菊陽町に立地したJASMの親会社でもあるTSMC、台湾積体電路製造と言われておりまして、この記事では、先行して2ナノ半導体を量産化することも重要だが、TSMCは、既にアップルやAMD、クアルコム、NVIDIAといった大口顧客を抱えていて、次世代半導体のシェア争いでも優位に立つだろうという見方をされております。

私自身もラピダス社の成功を期待する一人ではありますが、政府肝煎りの国家プロジェクトと言えば、つい先日、3月29日に、337億円の負債を抱えて経営破綻した有機ELパネル製造会社JOLEDのことがどうしても頭をよぎります。

JOLEDは、世界初の印刷による有機ELディスプレーの開発や量産化体制の構築を目的として、ソニーとパナソニックの有機ELディスプレーの事業を統合し、2015年に設立した企業ですが、創業以来、期待していた投資が思うように集まらず、設立から8年、石川県能美事業所でのディスプレー量産を開始して僅か2年で民事再生法の適用を受けるに至ったと、社員380人のうち280人は、順次、解雇されるとのことであります。

また、経営破綻ではございませんけれども、同様に政府肝煎りで三菱重工が開発を進めていた国内初のリージョナルジェット機、スペースジェットの失敗も記憶に新しいところであります。

このように、近年、国が開発資金を投入してきた大型プロジェクトが成功した事例というのはなく、新型コロナウイルスワクチン開発のときにも感じましたけれども、最先端の推進開発というのは、いち早く承認を得て特許を取得した企業が市場を独占するというような、ハイリスク・ハイリタ

ーンの世界なのだなというふうに受け止めております。
　今回のラピダス社の進出において、私が気になる点の一つが、この美々第2期地区の進出用地について、将来は取得を前提とはしているものの、定期借地権設定による貸付けだという点です。
　万一、当初の予定どおり開発生産が進まない場合、土地を取得せずに撤退する選択肢を残しているようにも感じるわけですが、当初からの用地取得ではなく、貸付けという選択に至った理由と、今申し上げたようなリスクヘッジに対する市の考えをお尋ねします。
○山崎議長　暫時休憩いたします。

（午後2時28分休憩）

（午後2時29分再開）
○山崎議長　再開いたします。
◎森次世代半導体拠点推進室長　今の御質疑に対してお答えいたします。
　ラピダス社は2025年の試作ライン稼働を目指しており、そのためには、いち早く建築工事に着手する必要があります。
　ラピダス社に対する信頼性のことになりますので、それについてはお答えできませんけれども、市としましては、基本的には大きなチャンスになるというふうに考えておりますし、リスクヘッジに関しては、今回の件に限らず、常に私たちは考えて取り組んでいます。
　ですから、今回の件に関しましても、この先事業がうまくいくように、市としても支援をしていきたいと考えております。
◆12番北山議員　最初に資金を投入することによって、千歳市とラピダス社は一蓮托生の関係に進んでいかざるを得ない、後戻りはもうできないわけです。
　それで、今後、懸案となる部分については、今の段階ではっきりとお尋ねをしておきたいということでございますので、もう一点だけお聞かせください。
　今、お尋ねしたのは、ラピダス社の事業が想定どおり進まなかった場合の懸念ですけれども、私が懸念をしているもう一つの部分は、順調に開発が進んで、本稼働に移行する際の問題です。
　先ほど相沢議員も触れていたのですけれども、本稼働時に必要と言われる膨大な水源、それから、配水池確保、これが今のところはっきりしていない、現在協議中であるということが委員会の中でも報告されておりました。
　現実的な選択肢としては、近隣から安い工業用水を引いてくるか地下水を利用することになるのかと思いますけれども、これらの水源確保の役割を誰が一体担うのか。
　仮に、北海道が主導して工業用水を引くと考えた場合、一番手近なところでは、隣接する苫小牧の工業用水を利用する案が考えられます。苫小牧東部工業地帯からパイプラインを布設するにしても、10キロ以上は必要になってくるのではないか。
　もう一つは、排水の問題です。大量の工場排水をどこで受けるのか。工場内である程度浄化しても、下流にウトナイ湖がある美々川には放流できませんし、下水処理をするとなれば、新たに大型の浄化施設を建設する必要が出てきます。それらの調整、経費負担、北海道は本当にやってくれる

のでしょうか。
　これは、あくまでも可能性の一つですが、本当にそういうことになってきた場合、北海道では調整がつかなくなって、別のところに移動してくれませんかなどという話になりかねないのではないかと懸念するところであります。
　そこで、お尋ねしますけれども、今ここで、北海道はもちろんのこと、国もラピダス社もそうなのですけれども、今回、投資した費用が将来回収できなくなることのないように、ラピダス社だけではなく、北海道や国とも、本稼働後も千歳市で生産を継続する確約を取る必要があるのではないかというふうに思いますけれども、そういうような確認をされているのか、あるいは、今後、覚書等を交わす余地はあるのかについてお尋ねをいたします。
◎森次世代半導体拠点推進室長　水源の話になりますけれども、繰り返しになりますが、現在協議中であります。2027年の量産ラインに向けて、現在協議中でありますので、その内容についてはお答えできません。
　あわせて、覚書の締結につきましても、現在協議中であり、締結する何ものもございませんので、お答えはできません。
　以上です。
○山崎議長　これで、北山議員の質疑を終わります。
　次に移ります。
　ほかに質疑ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○山崎議長　別に御発言がなければ、これで質疑を終わります。
○山崎議長　お諮りいたします。
　この3件の議案については、会議規則第37条第3項の規定に基づき、委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
○山崎議長　御異議なしと認めます。
　よって、この3件の議案については、委員会の付託を省略することに決定いたしました。
○山崎議長　ただいまから、採決を行います。
　お諮りいたします。議案第1号から第3号までは、原案のとおり可決することに賛成の議員の起立を求めます。
〔賛成者、起立〕
○山崎議長　起立多数であります。
　よって、この3件の議案は、原案のとおり可決されました。